

学校法人 柏 専 学 院

平成22年度事業報告

目 次

第1部	法人の概要	P 1
	Ⅰ. 設置する学校、学部、学科等		
	Ⅱ. 学生数の状況		
	Ⅲ. 役員、教職員の概要		
	Ⅳ. 理事会開催状況		
	Ⅴ. 経営改革推進室		
第2部	事業の概要	P 3
	Ⅰ. 新潟産業大学		
	1. 教育		P 3
	2. 研究		P 5
	3. 学生への支援		P 5
	4. 学生募集及び入学試験		P 9
	5. 留学生支援		P11
	6. 地域貢献・生涯学習		P13
	7. 附属図書館		P16
	8. 施設開放		P17
	9. スタッフ・ディベロップメント		P17
	Ⅱ. 新潟産業大学 大学院 経済学研究科		P18
	Ⅲ. 新潟産業大学 附属高等学校		P19
	1. 「教育等の事業」の概要		
	2. 今年度の実績		
	3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ		
	4. 生徒募集		
	5. 新規取組事項		
第3部	財務の概要	P25

第 1 部 法人の概要

I. 設置する学校、学部、学科等

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	開設年度	備考
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	昭和 6 3 年度	入学定員 90 名
		文化経済学科	平成 2 1 年度	入学定員 70 名
		国際コミュニケーション ビジネス学科	平成 1 8 年度	※平成 21 年度募集停止
	産業システム学部	産業学科	平成 1 8 年度	※平成 21 年度募集停止
	大学院 経済学研究科	経済分析・ビジ ネス専攻	平成 1 6 年度	入学定員 10 名 ※修士課程
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		昭和 3 3 年度	入学定員 160 名

II. 学生数の状況

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	学年	学生数	
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	1 年	87	391
			2 年	105	
			3 年	92	
			4 年	107	
		文化経済学科	1 年	52	110
			2 年	58	
			3 年	—	
			4 年	—	
		国際コミュニケーション ビジネス学科	1 年	—	70
			2 年	1	
			3 年	36	
			4 年	33	
	産業システム学部	産業学科	1 年	—	20
			2 年	—	
3 年			—		
4 年			20		
		合計(大学)	591		
大学院	経済学研究科	1 年	10	19	
		2 年	9		
		合計(大学院)	19		
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科	1 年	136	340	
		2 年	108		
		3 年	96		
		合計(高校)	340		
総 計			950		

Ⅲ. 役員、教職員の概要

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

		現員					
役員等	理事	監事	合計	評議員			
	1 1	2	1 3	2 4			
教員・教諭	大学				高校		
	専任				非常勤	専任	非常勤
	大学院	経済学部	産業システム学部	合計			
	—	3 2	3	3 5	4 3	2 5	1 1
職員	大学				高校		
	専任	嘱託	臨時				
	3 0	2	1				

Ⅳ. 理事会開催状況

回数	開催日	理事定数 8～11 名 (H22. 4. 1 現員 10 名) ↓H22. 12. 1 増員 1 名 (現員 11 名) 監事定数 2 名		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 1 回	H22.4.1	1 0 名	2 名	議題 1. 理事長、副理事長、常務理事選任 2. 理事分掌
第 2 回	H22.5.28	1 0 名	2 名	議題 1. 平成 21 年度事業報告 2. 平成 21 年度決算 3. 平成 22 年度当初予算一部変更 4. 資産売却 5. 評議員選任 6. 規程改廃 報告 1. 資金運用
第 3 回	H22.5.28	1 0 名	1 名	議題 1. 平成 22 年度当初予算一部変更 2. 資産売却 3. 規程改廃 報告 1. 資金運用 2. 附属高校耐震工事
第 4 回	H22.11.30	1 0 名	2 名	議題 1. 理事、評議員選任 2. 規程新設・改正 3. 人事の件 報告 1. 大学認証評価
第 5 回	H23.3.24	1 1 名	2 名	議題 1. 平成 23 年度事業計画 2. 平成 22 年度第 1 回補正予算 3. 平成 23 年度当初予算 4. 不要資産(土地)売却 5. 任期満了に伴う学校法人柏専学院理事選任の件 6. 人事(大学、高校)の件 7. 資金運用管理方針 8. 規程改正 9. 新潟産業大学 B 号館再活用 の件
第 6 回	H23.3.24	1 1 名	2 名	議題 1. 平成 23 年度事業計画 2. 平成 22 年度第 1 回補正予算 3. 平成 23 年度当初予算 4. 不要資産(土地)売却 5. 資金運用管理方針 6. 規程改正 7. 新潟産業大学 B 号館再活用 の件 報告 1. 大学認証評価 2. 平成 23 年度入試状況 3. 平成 22 年度卒業生就職、進路状況 4. 附属高等学校教室棟及び第一体育館耐震補強工事

V. 経営改革推進室

1. 未来経営戦略推進計画中間評価

新潟産業大学は平成 19 年度に、日本私立学校振興・共済事業団の私立大学等経常費補助金特別補助「未来経営戦略推進経費（平成 19 年度から 5 年間）」に採択された。平成 22 年度はその中間年度にあたり、特別補助審査委員会の中間評価ヒアリングを受け、改善計画の進捗状況報告を行った。評価結果は「B：計画がほぼ予定通り実行され、その成果が現れている」であった。引き続き特別補助金が交付されることとなった。

2. 新たな中・長期経営計画策定の取組み

日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センターの平成 22 年度経営相談を申し込み、指導を仰いだ。平成 23 年 1 月 26 日には、「学校法人柏専学院の現状と課題」をテーマとして、全教職員集会を開催した。

第 2 部 事業の概要

I. 新潟産業大学

1. 大学評価（認証評価）

本学は 2009（平成 21）年度において全学自己点検・評価を実施し、平成 22 年度事業計画（概況）に掲げたとおり、財団法人大学基準協会の 2010（平成 22）年度大学評価（認証評価）を受審した。その大学評価の結果、「大学基準に適合している」と認定された。認定の期間は、2011（平成 23）年 4 月 1 日から 2018（平成 30）年 3 月 31 日までである。

※公表された評価結果の詳細は下記参照。

- ・ 新潟産業大学ホームページから > 大学概要 > 自己点検・大学認証評価
- ・ 財団法人大学基準協会ホームページ

2. 教 育

事業項目	平成 22 年度実施内容
(1)教育内容・方法の見直しとシステム整備	①教育課程の改善 1)初年次教育から専門科目への移行教育の質確保 ・探究心やコミュニケーション能力の向上を目的として、学生全員がプレゼンテーションとその相互評価に取り組む「プレゼンテーション発表会」を 2 年次必修科目「プレゼミナール」に組み入れた。 2) 寄付講座の増設 ・経営学専門科目の「ビジネス・モデル・デザイン」を、柏崎経営品質研究会による寄付講座として開講し、地域の社会人も多数聴講した。丸福証券による「ファイナンシャル・プランニング」に次ぐ二つ目の寄付講座となった。 ②成績評価法の改善 1)年間履修登録単位数の厳格化

	<ul style="list-style-type: none"> ・年間履修登録単位数の上限を 52 単位から 49 単位に削減した。 <p>2) 単位認定の一部改正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新潟産業大学編入学に伴う既修得単位の取り扱いに関する内規」の改正を行い、現行カリキュラムに沿ったより効率的な編入学生の既修得単位認定を可能とした。 ・「新潟産業大学既修得単位認定規程」を制定し、新入生の入学前既修得単位として最大 20 単位までの認定を可能とした。 <p>③教務システムの更新と周辺システムの整備</p> <p>1) 教務システム更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学事務管理支援システム“GAKUEN”のバージョンアップとパソコン・OS の入れ替えを行った。合わせて独自開発の周辺システムについて標準帳票化を図り教務事務の効率化を図った。 ・平成 24 年度稼働を目標に、「Web 履修登録システム」の開発に着手した。なお、この開発には、産業システム学部生が卒業研究として参加している。
(2)授業改善の推進	<p>①FD（ファカルティ・ディベロップメント）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートに関し、これまでの低評価授業に対する改善計画書の作成・公開に加え、「学生が選ぶベスト授業」と題して高評価授業に対する評価開示と表彰を行った。 ・教員相互授業見学において、全ての専任教員が見学すべき「指定授業」を設け、全専任教員が参加する授業評価検討会を実施した。 ・FD研修会を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 <ul style="list-style-type: none"> 開催日：平成 22 年 6 月 23 日 15:30～16:30 講 師：東洋大学教務部経済学部教務課長 高橋清隆 テーマ：『東洋大学経済学部におけるFD活動の取り組み』 参加数：21 名 第 2 回 <ul style="list-style-type: none"> 開催日：平成 22 年 12 月 22 日 15:00～16:30 講 師：本学専任講師 川本真哉 テーマ：『エアロプレゼンターの基本操作とその実践』 参加数：21 名 ・新任教員研修会を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 開催日：平成 22 年 4 月 9 日 14:55～16:25 講 師：本学FD委員長 参加数：4 名（※新任教員全員） <p>②視聴覚機器の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな視聴覚機器として移動式電子黒板「エアロプレゼンター」を導入した。あわせて教員向けに活用方法研修会を開催した。
(3)高大連携事業の改善	<p>①高校生対象の科目等履修生制度の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新潟産業大学科目等履修生規程」を改正し、本学と高大連携に関する協定を締結している高等学校等の生徒を科目等履修生として受入れ、大学の単位として認定できるようにした。 <p>②附属高等学校「ブリッジプログラム」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路検討時期に受講できるようステップ科目の高校開講年次を 3 年次から 2 年次に引き下げた。 ・上記①の「新潟産業大学科目等履修生規程」の改正により、従来のオムニバス形式のステップ科目に加え、本学の単位認定科目「中国語 I A」をプログラムに加え附属高校との連携強化を図った。

3. 研 究

事業項目	平成 22 年度実施内容
(1)研究活動の活性化	<p>①外部資金の獲得</p> <p>【平成 22 年度科学研究費補助金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本真哉「企業統治とリストラクチャリング行動の“親和性”に関する実証分析」 1,040,000 円 <p>※科研費(科学研究費補助金)講習会の開催 研究活動を刺激・促進する方策として、科研費申請のポイントを 2 名の科研費採択者が講師となって講習会を開催した。 開催日：平成 22 年 9 月 29 日(水) 15:00～16:20 講 師：沼岡教授、川本講師</p> <p>【内田エネルギー科学振興財団】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小出瑞康「縦渦励振駆動型マイクロ発電機開発のための平板による円柱後流への干渉効果の解明」 210,000 円 ・アブドゲニィ アブドレヒミ「酸化チタン光触媒による環境浄化の実演」 160,000 円 ・藤井信行「エネルギーと環境問題」および「カラー画像と視覚」他 130,000 円 <p>②研究成果の把握と公表 経済学部紀要第 38 号 を平成 22 年 6 月に発行した。 執筆者 題 目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星野 三喜夫 「東アジア共同体」とアジア太平洋の地域統合 ・橋本 次郎 「生活数学」の教育効果について ・小林 健彦 日本の中世後半期に於ける災害対処の文化史 ・沼岡 努 奴隷共用菜園・野菜畑の歴史的展開及びその役割 ・佐藤 尚子・菅谷 奈津恵 柏崎日本語教室の活動について

4. 学生への支援

事業項目	平成 22 年度実施内容
(1)学生行事・学生活動	<p>①学園祭など、学生主催行事の充実に向け、学生に対し教職員から次の事項について助言・サポートを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週 1 回の学友会・学生行事実行委員会ミーティング時に、学生課職員が出向き、年間を通して実施される学生主催行事に対する指導助言を行った。 ・新入生学外合宿研修におけるアクティビティ、レクリエーションに関する指導助言を行った。 ・学園祭の企画・立案段階から相談に乗り、従来のイベントに加え、新規企画と集客を図るための方策、全日程を通してアカデミックな学園祭にするための指導助言を行った。 ・学生が企画立案する球技大会（産大カップ）の指導助言を行った。ソフトボールに 14 チーム、ソフトバレーボールに 10 チーム参加。 ・「ぎおん柏崎まつり」に、学生有志及び職員総勢 50 名の「産大神輿」で参加した。

- ②公認部・サークル活動の活性化に向け、学生に対し教職員から次の事項について助言・サポートを行う。
- ・新入生学外合宿研修において、学生部員が公認部・サークルの紹介を行うとともに、課外活動見学会の希望調査を実施し、入部・入会率の増加に繋げた（平成 21 年度 41%→平成 22 年度 47%）。
 - ・新入生の書道部経験者を募り、新規に書道部を同好会として発足させた。
- ③携帯電話のメールを活用した的確な情報発信を行う。
- ・在学生に携帯電話のメールアドレスを登録してもらい、大学行事への参加の呼びかけなどに利用した。
 - ・公認部・サークル代表者への連絡等に利用し、迅速な対応が可能となった。
- ④学生生活全般について学生が相談できる「学生相談室」を開設する。また、1 年次必修科目「基礎ゼミナール」において、副担任を事務職員の中から選抜し、ゼミ担任と協働で学生が安心して学生生活を送れるようアドバイスを行う。
- ・学生委員会の教員委員による学生相談室を月曜日から金曜日開設したが利用者が無く、ゼミナール担当教員による現行のオフィスアワーでの対応に窓口を一本化する方向で検討することとした。
 - ・1 年生の必修科目である「基礎ゼミナール」において CLA（キャンパスライフアドバイザー）を事務職員の中から選抜し、クラス担任と協力する中で、学生が安心して学生生活を送れるよう個別面談指導・助言を行った。また、2 年生必修科目である「プレゼミナール」においても、CLA を追加配置し、同様に学生への個別面談指導・助言に当たった。

(2)経済的支援

- ①スポーツ・文化活動で活躍する学生には奨学制度による経済支援を行う。
- ・スポーツ推薦入試で合格した新入生の中で、学費軽減の条件に当てはまる学生 9 人を採用した。在学生は 9 人を採用した。
- ②人物・学業成績優秀な日本人学生への学費軽減制度による経済支援を行う。
- ・学費軽減規程に則り、申請者の中から前年度 1 年間の成績により 17 人に対して、人物・学業成績優秀者の学費軽減を行った。
- ③学業成績優秀な新入生への授業料全額免除制度など経済支援を行う。
- ・学業特待生：一般前期日程入試のうち成績上位 2 人、センター入試（前期・後期）合格者のうち 85%以上(200 点満点中 170 点以上)得点した学生に対し、4 年間の授業料を全額免除する。平成 22 年度は、採用者はいなかった。
 - ・学費軽減：一般前期日程入試のうち、学業特待生制度対象者を除く、成績上位者 10 人、センター入試(前期・後期)合格者のうち 70%以上 (200 点満点中 140 点以上) 得点した学生全員について、初年度の授業料を半額免除する。軽減者数：22 人。

学費軽減者採用状況 (人)

		1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
学業成績	授業料全額免除		2	0	0

優秀者	授業料半額軽減	22	7	5	5
スポーツ・文化	授業料半額軽減	9	2	4	3

④学生寮の開拓を行う。

- ・通学と日常生活に利便性のある物件を開拓し、大学借り上げアパート 10 室増とした。

(3)学外団体との連携

①スポーツ競技団体や文化団体と連携し地域のスポーツ・文化活動高揚に貢献する。

- ・水球部、卓球部、ライフセービング部、男・女バレーボール部、茶道部が、地域の団体や高校等と合同練習や活動を実施した。

②小中学校の「総合学習」への留学生派遣を積極的に行い、国際交流に貢献する。

- ・実績については、5. 留学生支援(3)各種交流支援を参照。

③地域の諸団体と連携を図り、ボランティア活動への積極的参加に努める。

- ・各種団体から学生に対しボランティア活動の依頼があるため、学生課が窓口となり、一括でポスターや要項を掲示し学生への周知を行った。また、ボランティアサークルが率先して、主に柏崎市内で行われる行事のボランティアに参加した。

④校友会、父母の会との連携強化を図る。

- ・学園祭において、本学卒業生がボーカルを担当するプロのバンドを招き、校友会協賛により公演を実施した。
- ・父母の会総会時に大学の現況を報告すると共に、懇親会で教職員と保護者との親睦を深めている。また、各支部総会に教員を派遣し、保護者との交流を深めた。

⑤新潟工科大学との交流を図る

- ・両大学の学園祭に、お互いの学友会スタッフを招き交流を深めた。また、恒例の市民有志による新入生合同歓迎会では、両大学の学友会メンバーがスタッフとなり、新入生に分かり易い市内マップの作製や当日のアトラクションの企画・運営に携わった。

(4)就職支援

①4年生全員の就職活動状況把握に努め、活動低調な学生には積極的に求人紹介、応募、内定までのフォローアップをする。5月段階の内定状況によっては、未内定者のための合同企業説明会を夏頃開催する。

- ・ゼミ教員による定期的な就職活動調査や就職課による電話聞き取りを実施することにより、4年生全員の就職活動状況把握を行った。
- ・活動低調な学生に対しては、特にキャリアカウンセラーと連携し、メンタルケアから就職活動全般に関する指導、積極的な求人紹介、応募、内定までのフォローアップを行った。
- ・夏以降、未内定者のために、新潟市で開催する合同企業説明会参加のバスツアーを3回実施し、延べ19人が利用した。

②地元就職志向の学生と地域企業のニーズを結び、地元企業への就職者数を増加させる。

- ・地元就職希望の学生には、地元の求人を積極的に紹介した。
- ・新潟県出身者の県内企業へのUターン率は、83.0%であった。

③キャリアカウンセラー有資格者を配置する。就職活動やキャリアに関する適切な個別アドバイスを行う。

- ・4月よりキャリアカウンセラー1人を配置した。また、就職活動最盛期となる11月には、更に1人キャリアカウンセラーを増員し、体制の強化を図り、延べ220人の学生に対し個別・面談指導を行った。
- ・キャリアカウンセラリングを受けた学生の多くは、職業領域ごとの関心を含めた自己理解と就職への意識が深まった。4年生の未内定者にあっては、年明けから卒業までの就職決定につながった。

④学生のニーズおよび雇用環境の変化を的確に把握した各種就職支援プログラムを実施する。(主に3年次)

- ・学生のニーズに合わせ、以下の講座を実施した。結果、学生満足度調査では、「満足」が12.2ポイント増加した(15.6%→27.8%)。

支援プログラム	実施日程
就職ガイダンス	ア.活動準備編(4月) イ.就職登録・プロフィール登録カードブック配付(5月) ウ.実践編/履歴書提出(9月) エ.内定編(4年次4月)
筆記試験対策	ア.YG性格検査・内田ケレリン検査(4月) イ.自己分析対策講座&職業適性(5月) ウ.一般常識対策講座&模試(6月) エ.SPI対策講座&模試(7月) オ.エントリーシート対策講座&模試(10月)
就職セミナー (外部講師)	ア.業界・会社・職種研究1と2(6月) イ.実践的就活方法(9月) ウ.求人票活用方法(10月) エ.自己分析攻略法(10月) オ.メーキャップ講座(11月) カ.ビジネスマナー講座(11月) キ.応募書類作成講座(11月) ク.面接対策講座1.2(12月)
その他支援	ア.就職活動体験談発表会(11月) イ.2日連続直前研修会(1月) ウ.学内合同企業説明会(2月)

⑤インターンシップ(就業体験)の参加を学生に積極的に働きかける。(3年次)

- ・昨年度同数の5名の学生がインターンシップを履修した。今後の課題として、低学年次からの就職意識の向上を図る必要がある。
- ・インターンシップは、履歴書作成や企業研究レポートの作成、事前訪問など就職活動を意識した内容となっている。また、マナー講習や守秘義務遵守など、就業体験前の指導に力を入れている。実際の研修内容については、できるだけ多くの業務を経験させてもらうよう受入企業に依頼した。

⑥卒業生の退職・転職に関する調査を継続する。求人票送付時に依頼文書を送付する。企業訪問時には積極的に卒業生の情報収集に当る。

- ・求人票発送時に、本学学生採用実績企業に対する在職確認を依頼するとともに、企業訪問の際に積極的な卒業生の情報収集を行った。

⑦低学年向けのキャリア支援を強化するため、新入生の志向や動向を探る進路調査を行い、就職ガイダンス・セミナーを開催する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より新たに、1年次及び2年次に対する就職ガイダンス・セミナーの開催を設定し、低年次の就職意識の発揚を図った。 ・早期段階での職業・業種理解を深めることを目的としたキャリア支援アンケート(回答率74.1%)を1年生に実施した。このアンケート結果は今後の求人開拓及び個別就職指導等の基礎データとして蓄積した。
--	---

5. 学生募集及び入学試験

事業項目	平成22年度実施内容
(1)学生募集の目標	経済経営学科入学定員90人、文化経済学科入学定員70人の充足を目標としたが未達となった。
(2)目標実現のための主な方策	<p>①本学の特徴のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門教育、社会人基礎力の養成、就職に強い大学、資格取得支援 ・キャンパスライフアドバイザー制度や基礎ゼミ、プレゼミなどによるきめ細やかな指導 ・経済的困窮者に対する学費軽減制度や大学契約アパート <p>②高等学校等教員への働きかけ</p> <p>県内高等学校を中心に高校訪問を行い、本学の教育の特長や各種制度の周知を図るとともに、出張講義の利用を呼びかけた。</p> <p>また、9、10月に各1回、新潟工科大学との共催による教員向けオープンキャンパスを開催し、柏崎市市内中高教員の参加を募り、地元大学への理解を深める機会とした。アンケートの結果、本学の教育内容や取り組みに対し高い評価を得た。</p> <p>③柏崎市内高校との連携強化</p> <p>地域密着大学として、地元高校生対象の模擬授業や説明会を行い、本学での学びについての理解を深める機会とした。</p> <p>新潟産業大学附属高校 4月：3年担任との情報交換、 保護者説明会、1年生学校見学会 6月：2年生進学説明会 11月：1年生体験授業</p> <p>柏崎高校 7月：2年生対象模擬授業 柏崎翔洋中等教育学校 8月：5年生対象出張講義 柏崎総合高校 12月：各学年対象出張講義</p> <p>④AO・推薦入学試験に向けた広報の強化</p> <p>高校訪問及び進学説明会での説明に加え、5月～8月にテレビCM、新聞広告、JRの中吊り広告等により広報を強化した。</p>
(3)募集活動の重点校区及び地域	5つの重点地域を定め募集活動を実施した。
(4)重点実施事項	<p>①高校訪問の実施</p> <p>春、夏をピークに年間を通じて高校訪問を実施した。</p> <p>②オープンキャンパスの開催</p> <p>第1回 6月27日</p>

第2回 8月7日

第3回 9月25日

③業者企画進学説明会への参加

進学説明会には一般会場で複数の高校生を対象とする説明会と、特定高校で実施する説明会に分別される。高校における説明会では、職業の説明や面接や小論文の指導を行う場合もある。今年度の参加実績は以下のとおりである。()は前年度実績

4月：16回(12回)

5月：15回(12回)

6月：15回(18回)

7月：18回(22回)

8月：1回(4回)

9月：4回(6回)

10月：1回(3回)

11月：2回(3回)

12月：8回(5回)

1月：2回(6回)

2月：4回(7回)

3月：7回(13回)

合計：93回(111回)

④出張講義の実施(業者企画模擬授業や本学での模擬授業も含む)

以下の高校において出張講義を行った。講義数は前年を上回っており、今後も利用を呼びかけたい。

5月20日：巻総合高校

6月23日：五泉高校

7月9日：小千谷高校(3講義)

7月29日：柏崎高校(6講義)

8月25日：糸魚川高校

8月30、31日：柏崎翔洋中等教育学校

9月14日：新潟西高校

11月9日：柏崎総合高校(5講義)

12月10、13、20日：柏崎総合高校

2月3日：高田南城高校

2月4日：関根学園高校

3月14日：新井高校

3月15日：阿賀野高校

3月16日：糸魚川白嶺高校

⑤バス見学会の実施

スクールバスで送迎し、高校側の要望に合わせた平日見学会の実施を計画したが、実現には至らなかった。

⑥社会人学生の募集

柏崎市及び周辺市町村在住の50歳以上の社会人を対象に募集活動を行った。その際、大学で学ぶことへの障害を取り除き興味を喚起すべく、地区の住民集会用に簡易リーフレットを作成し、説明会で使用した。

⑦海外入試アドバイザーの委嘱

中国の海外入試アドバイザーとは十分な連携がとれなかったが、韓国からの留学生受入れに係るアドバイザーとはよく連携がとれ、志願から

	合格・入学へとつながった。 ⑧海外指定校の見直しと拡充 今後も出願が見込まれる中国内蒙古自治区の指定校並びに四川省峨眉山市教育局との指定校覚書を更新した。また、中国青海民族大学と新たに覚書を締結し、海外入試を実施した。
(5)広報活動の媒体	・県内高校内においては前年同様県内 11 大学の合同案内リーフレット作成配付や大学チラシの合同ラック設置（県内全高校）を行うとともに、オープンキャンパスのポスター校内掲示を依頼した。 ・新聞広告、電車の中吊り広告、Web で、オープンキャンパスや入試情報の周知を図った。テレビでは本学のオリジナルCM放映に加え、NSTの企画CM「だいすき新潟」に参画した。
(6)入試制度の見直し	つぎの見直しを行った。 ①スポーツ推薦入試の面接、活動実績、調査書の配点見直し。 ②卓球、空手道のスポーツ特待生の採用基準緩和。 ③帰国生入試の新設。 ④海外留学生秋学期入学試験（1年次入学及び3年次編入）の実施。
(7)厳正な入学試験の実施	①出題ミス根絶のため、複数人による複数回のチェックを実施した。 ②問題文の引用に関しては、著作権処理を行っている。 ③問題・答案等の管理に十分留意するとともに、厳正な合否判定を行った。

6. 留学生支援

事業項目	平成 22 年度実施内容
(1)学習・生活支援	<p>①チューターによる生活・学習指導 学生課職員も参加し、チューターのミーティングを週 1 回行った。ミーティングでは、留学生との交流事業の計画、留学生のための生活・学習指導の実施方法について検討し、留学生支援活動の向上を図った。</p> <p>②留学生の生活・学習相談 ・1年次の「基礎ゼミナール」、2年次の「プレゼミナール」において、担任教員と CLA(キャンパスライフアドバイザー)が留学生の個別面談等を実施する中で、生活面・学習面での指導を行った。また、ゼミ担当教員、学生課職員等が留学生の相談窓口となって、個別に対応を行った。 ・留学生寮に入居している学生には寮毎に集会を開き、ゴミの分別の仕方や寮の規則に関して周知徹底を行った。 ・授業科目「大学生活と危機管理」において、専任教員が大学生活におけるトラブルの回避、自然災害への対処法などを指導した。また、その授業時間の一部を、医務室看護師が健康管理を指導した。</p> <p>③国際センターによる日本語補習授業 日本語能力が不足している学生に対し、春学期 4 月 12 日～7 月 29 日の間、週 4 コマ実施し 35 人が受講した。秋学期 9 月 27 日～1 月 21 日までの間、週 4 コマ実施し 16 人が受講した。</p> <p>④国際センターによる日本語能力試験 N 1 対策講座 日本語能力試験 N 1 合格に向け、春学期 4 月 14 日～7 月 3 日の間、週 3 コマ実施し 25 人が受講した。秋学期 9 月 30 日～12 月 3 日の間、週 2 コマ実施し 12 人が受講した。N 1 合格者数は 6 人だった。</p>

<p>(2)経済的支援</p>	<p>①私費外国人留学生に対し、授業料の減免を実施する。 ・留年者を除く私費外国人留学生全員に対し、授業料を一律 40%減免した。</p> <p>②2・3年生の学業成績優秀者に対し、私費外国人留学生学習支援金として奨学金を支給し、経済的支援を行う。 ・厳しい経済情勢の中、申請者の中で評価係数の高い者から 19 人に対し奨学金を支給した。</p> <p>③日本での学習及び生活に円滑に移行できるようにするため、1年生全員に住宅費補助及び交通費補助を実施する。 ・住居費補助として月額 10,000 円、年間 120,000 円を支給した。また、アパートに入居する者に限り、住宅総合補償負担金 9,000 円を支給した。 ・通学費補助として 45,000 円を支給した。</p> <p>④留学生向け学生寮の物件開拓を図る。留学生借上げ宿舎支援制度等を利用し安価な宿舎を確保する。 ・借上げアパートを 10 室増やし、月額 10,000 円を大学が負担することとし、日本人学生・留学生(国内入試受験者)双方の平成 23 年度入学者から紹介することとした。</p> <p>⑤経済不況の中、近隣地域を含めたアルバイト求人の開拓に努める。 ・秋学期にアルバイトを希望する留学生のために、2 社 28 人の新規求人を開拓した。</p>																																																												
<p>(3)各種交流支援</p>	<p>①球技大会、キャンプ、パーティーなど、チューターを中心として各種交流の場を企画し、有意義な学生生活に繋げられるよう指導・助言に努める。 ・球技大会及び 1 泊 2 日のサマーキャンプは参加希望者が少なく、中止したが、その代替として、長野県への日帰り旅行を計画したところ 27 人の参加があった。その他に、日本料理体験を学生ラウンジで実施した。</p> <p>②小中学校における総合学習や文化活動団体の行事など、母国の文化紹介及び交流の場を設ける。各団体の行事に積極的に参加するとともに、多くの市民が来校する学園祭などの学内行事においても母国の文化紹介や交流の場を設けた。</p> <table border="1" data-bbox="555 1397 1410 1901"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>実施日</th> <th>派遣先</th> <th>内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5月31日</td> <td>柏崎市立枇杷島小学校</td> <td>国際理解学習</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>7月17日</td> <td>柏崎地域国際化協会</td> <td>市民復興祭パネル展示など</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>7月30日</td> <td>柏崎地域国際化協会</td> <td>地球市民キッズサマースクール講師</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>7月31日</td> <td>柏崎市教育委員会</td> <td>かしわざきこども大学</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>8月17日</td> <td>新潟県柏崎地域振興局健康福祉部</td> <td>「わたしの主張」における民族舞踊披露</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>9月9日</td> <td>柏崎刈羽支部教育研究会</td> <td>海外の外国語教育に関する討論</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>9月23日</td> <td>向徳寺</td> <td>民族舞踊発表</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11月27日</td> <td>刈羽村立刈羽小学校</td> <td>国際セミナー</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>1月14日</td> <td>柏崎市立日吉小学校</td> <td>国際交流学習</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2月7日</td> <td>柏崎市立田尻小学校</td> <td>総合的な学習</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2月17日</td> <td>柏崎市立第一中学校</td> <td>学校支援地域本部事業</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>	No	実施日	派遣先	内容	人数	1	5月31日	柏崎市立枇杷島小学校	国際理解学習	11人	2	7月17日	柏崎地域国際化協会	市民復興祭パネル展示など	6人	3	7月30日	柏崎地域国際化協会	地球市民キッズサマースクール講師	1人	4	7月31日	柏崎市教育委員会	かしわざきこども大学	11人	5	8月17日	新潟県柏崎地域振興局健康福祉部	「わたしの主張」における民族舞踊披露	5人	6	9月9日	柏崎刈羽支部教育研究会	海外の外国語教育に関する討論	2人	7	9月23日	向徳寺	民族舞踊発表	3人	8	11月27日	刈羽村立刈羽小学校	国際セミナー	7人	9	1月14日	柏崎市立日吉小学校	国際交流学習	3人	10	2月7日	柏崎市立田尻小学校	総合的な学習	6人	11	2月17日	柏崎市立第一中学校	学校支援地域本部事業	4人
No	実施日	派遣先	内容	人数																																																									
1	5月31日	柏崎市立枇杷島小学校	国際理解学習	11人																																																									
2	7月17日	柏崎地域国際化協会	市民復興祭パネル展示など	6人																																																									
3	7月30日	柏崎地域国際化協会	地球市民キッズサマースクール講師	1人																																																									
4	7月31日	柏崎市教育委員会	かしわざきこども大学	11人																																																									
5	8月17日	新潟県柏崎地域振興局健康福祉部	「わたしの主張」における民族舞踊披露	5人																																																									
6	9月9日	柏崎刈羽支部教育研究会	海外の外国語教育に関する討論	2人																																																									
7	9月23日	向徳寺	民族舞踊発表	3人																																																									
8	11月27日	刈羽村立刈羽小学校	国際セミナー	7人																																																									
9	1月14日	柏崎市立日吉小学校	国際交流学習	3人																																																									
10	2月7日	柏崎市立田尻小学校	総合的な学習	6人																																																									
11	2月17日	柏崎市立第一中学校	学校支援地域本部事業	4人																																																									

7. 地域貢献・生涯学習

事業項目	平成 22 年度実施内容
(1) 詩の朗読会「ことばのひびき」	<p>「ことばのひびきⅦ」を 2 月 5 日（土）に柏崎エネルギーホールで開催し、地元高校生 16 名、本学学生 8 名（内 留学生 4 名）が詩の朗読発表を行った。朗読された詩は、日本語以外に英語、中国語（北京語）、チベット語、モンゴル語、韓国語の 6 言語に及んだ。また、朗読会終了後には、韓国と中国（内蒙古自治区）の留学生による民族楽器の演奏と民族舞踏の発表も実施された。当日は約 100 名の来場者があった。</p> <p>実施に向けた事前のリハーサル（全体練習）を、1 月 22 日（土）に柏崎エネルギーホールで発表者を集めて実施した。</p>
<p>(2) 「地球くらぶ」 （国際教養体験講座）</p> <p>・新潟産業大学青少年国際経済人育成事業（新潟県ロータリークラブ寄付金原資）</p>	<p>青少年国際経済人育成事業の一環として、「地球くらぶ」（国際教養体験講座）を次のとおり実施した。（全 3 回）</p> <p>① 剣野小学校児童クラブ 日時：8 月 9 日（月） 9：30～12：00 場所：剣野小学校地内児童クラブ 参加人数：46 名 内容：児童に本学留学生が韓国・中国・モンゴルの文化を紹介</p> <p>② 新道小学校児童クラブ 日時：8 月 11 日（水） 13：00～15：30 場所：新道小学校内教室 参加人数：43 名 内容：児童に本学留学生が韓国・中国・モンゴルの文化を紹介</p> <p>③ 紅葉祭（学園祭）地球くらぶ文化祭 日時：10 月 10 日（日） 10：00～15：00 場所：本学 学生ラウンジ 参加人数：50 名 内容：地元の小・中高生および保護者を対象に韓国・中国・モンゴルの遊びや文化を紹介。ゲームの体験や民族衣装の試着コーナーやゲル（モンゴルの移動型簡易住居）の展示も実施した。</p>
(3) 近隣地域講座実施	<p>近隣地域での公開講座を次のとおり実施した。</p> <p>① 「日本女性のあゆみ」 講師：小林 健彦 准教授 場所：上越市民プラザ 実施日：9 月 4 日（土）・11 日（土）・18 日（土） 参加人数：6 名</p> <p>② 「韓国の食と美容」「日本と違う韓国文化」 講師：伊東 真美 講師 場所：上越ケーブルテレビジョンスタジオ 実施日：5 月 15 日（土） 参加人数：20 名</p> <p>③ 「中国のマナーとタブー」「中国ことばの文化」 講師：詹 秀娟 教授 場所：上越ケーブルテレビジョンスタジオ 実施日：5 月 22 日（土） 参加人数：20 名</p>
<p>(4) 「ふるさと自慢作文コンテスト」実施</p> <p>・平成 22 年度 柏崎市委託事業</p> <p>・新潟産業大学青少年国際経済人育成事業（新潟県ロータリークラブ寄付金原資）</p>	<p>青少年国際経済人育成事業並びに柏崎市委託事業として、「ふるさと自慢作文コンテスト」を実施した。</p> <p>6 月から 7 月にかけて柏崎・刈羽地域の小学校 28 校、中学校 13 校、高校 6 校など延べ 47 校を訪問し、コンテストの趣旨（地域の誇るべき自然や文化、歴史、特産物などを題材とした作文を募集し、地域貢献の担い手で青少年の育成と地域振興に貢献する）を説明し作品を募った。その結果、応募総数は 682 点（小学校 262 人・中学校 316 人、高校生 104 人）にのぼった。応募作品の中から最優秀賞を 3 点、優秀賞 3 点、特別賞 3 点、特別賞を 7 点選び、10 月 10 日に本学講堂において発表会・表彰式を開催した。また、受賞作品の中から 102 点を選び、12 月 21 日から 26 日の間、柏崎ソフィアセンターにおいて作品展を開催した。</p>

<p>(5)「柏崎に関する研究発表会」参加</p>	<p>平成 22 年度 新潟工科大学・新潟産業大学学生による「柏崎に関する研究発表会」参加 主催：柏崎商工会議所総合建設部会、新潟県建設業協会柏崎支部 <本学の研究発表> ・柏崎におけるスポーツによる町づくりの可能性について ～ 先行事例の分析と柏崎への導入の検討 ～ ・地域災害と学校教育 ～教科書の記述から見えてくるもの～ ・就労支援事業所における就労支援の調査研究</p>
<p>(6)一般教養＝市民向け 文化的講座開放拡大</p>	<p>①柏崎地域において市民向け「公開講座」として次の講座を実施した。 1)「エクセルによるアンケートの統計処理」 講師：橋本 次郎 教授 場所：本学第 2 電算実習室 実施日：6 月 4 日～6 月 25 日の毎週金曜日（計 4 回） 参加人数：8 名 2)「かんたん！美味しい！韓国の味」 講師：若月 順美江（学外講師） 場所：市民プラザ料理実習室 実施日：10 月 16 日・23 日 参加人数：10 名 3)「エクセルによる統計データの簡単処理」 講師：橋本 次郎 教授 場所：本学第 2 電算実習室 実施日：11 月 5 日～11 月 19 日の毎週金曜日（計 3 回） 参加人数：6 名 ②学内の講義を一般に開放する「聴講講座」として、下表授業科目を公開し、一般受講希望者を受け入れた。（全 39 講座）</p>

No.	講座名	講師	開講期間	回数	一般 受講者数
1	韓国語総合演習	蓮池 薫	4/14～1/19	28	6
2	韓国語会話A	蓮池 薫	4/14～7/21	14	6
3	コミュニケーション韓国語A	蓮池 薫	4/13～7/20	14	7
4	基礎韓国語A	蓮池 薫	4/13～7/20	14	4
5	応用韓国語A	蓮池 薫	4/13～7/20	14	2
6	日本の芸術	片岡 直樹	4/16～7/16	13	3
7	ビジネス・モデル・デザイン	五味 由紀子 他	4/9～7/16	14	25
8	中国語会話A	詹 秀娟	4/15～7/22	14	5
9	ビジネス中国語会話A	詹 秀娟	4/14～7/21	14	3
10	基礎中国語A	詹 秀娟	4/13～7/20	14	1
11	応用中国語A	詹 秀娟	4/13～7/20	14	3
12	英語ⅠA	樋口 正昭	4/13～7/20	14	2
13	英語ⅡA	樋口 正昭	4/13～7/20	14	2
14	英語総合演習	樋口 正昭	4/14～1/19	28	3
15	ファイナンシャル プランニング	広川 雅巳/ 小森 卓	4/14～7/21	14	2
16	ヘルスサイエンス	広川 俊男	4/13～7/20	14	2
17	マスメディアと大衆文化	梅澤 精	4/15～7/22	14	1
18	化学	アブドゲニィ・ アブドレヒミ	4/13～7/20	14	1
19	公共経済学	阿部 雅明	4/12～7/19	14	1
20	生活数学	橋本 次郎	4/12～7/19	14	1
21	地域社会学	梅澤 精	4/13～7/20	14	2
22	韓国語会話B	蓮池 薫	9/29～1/19	14	6
23	中国語会話B	詹 秀娟	9/30～1/20	14	5
24	ビジネス英会話B	星野 三喜夫	9/30～1/20	14	3
25	日本文化論Ⅰ	片岡 直樹	10/7～1/20	13	3
26	基礎韓国語B	蓮池 薫	9/28～1/18	14	2
27	地域振興論	梅澤 精	10/7～1/20	13	1
28	応用中国語B	詹 秀娟	9/28～1/18	14	3
29	韓国事情	蓮池 薫	9/30～1/20	14	12
30	コミュニケーション韓国語B	蓮池 薫	9/27～1/20	14	5
31	基礎中国語B	詹 秀娟	9/28～1/18	14	1
32	情報社会論	梅澤 精	9/28～1/18	14	1
33	ビジネス中国語会話B	詹 秀娟	9/29～1/19	14	3
34	ビジネス英語B	星野 三喜夫	9/27～1/17	14	1
35	英語ⅠB	樋口 正昭	9/28～1/18	14	3
36	英語ⅡB	樋口 正昭	9/28～1/18	14	1
37	応用韓国語B	蓮池 薫	9/28～1/18	14	2
38	日本の文化と社会	小林 健彦	9/27～1/17	14	1
39	デジタルコンテンツ産業	梅比良 眞史	9/30～1/20	14	1

(7)能力を証明できる社会人対象公開講座のプログラム化検討

社会人を対象とした資格取得のための対策講座として、次の講座を設置した。

- ① 「TOEIC 試験リスニング対策講座」 講師：星野 三喜夫 教授
場 所：市民プラザ学習室 303
実施日：5月10日～6月28日の毎週月曜日（計8回）
参加人数：12名
- ② 「楽しい中国語講座」 講師：詹 秀娟 教授
場 所：市民プラザ学習室 202
実施日：6月22日～8月31日の毎週火曜日（計10回）
参加人数：11名

(8)生涯学習センター「友の会」会員数の拡大

生涯学習支援を目的とした本学生涯学習センター「友の会」の入会者数は39名（前年度は38名）であった。内訳は、前年度からの継続会員が26名、新規会員は13名。また、3月5日（土）に生涯学習センター「友の会」懇親会（会場は本学第1会議室）を実施し、今年度の事業報告と次年度の事業計画を報告。同時に、会員同士の意見交換を行い、相互の交流を促した。

(9)十日町市ビジネスコンテストへの参加	<p>第1回十日町市ビジネスコンテストに本学学生3チームが参加し、2チームが予選会から本選会へ進み、最優秀賞と第3位に選ばれた。このコンテストは、十日町市が「十日町市で行うビジネス」をテーマとしたもので、地域経済の活性化を目的とし実現性を重視しつつ、大学生らしい斬新なアイデアを地元大学生と県外大学生が競い合う企画である。</p> <p>○最優秀賞：チームNSU 「十日町を糖菓町へ そして、十菓町へ ～スイーツで町おこし～」</p> <p>○第3位：チーム燦水会 「各地のFM放送を使った低コストな“まちの活性化”実験～十日町市と那覇市をFMで結ぶ日本初の試み～」</p>
(10)水球の地域クラブチーム発足に参画	<p>7月1日、県内初の水球の社会人チーム「ブルボンウォーターポロクラブ柏崎」が発足した。設立には、同クラブ理事長である本学広川学長と同クラブ監督兼選手である本学経済学部青柳助手が参画した。ロンドン五輪出場に向けた競技力向上と「水球のまち柏崎」を目指した活動を開始した。</p>

7. 附属図書館

事業項目	平成22年度実施内容									
(1)開館サービス状況	<p>①開館時間：月～金 9:00～19:00 長期休業期間 9:00～17:00</p> <p>②入館者数：33,427人(H21年度 44,206人) ※前年度に比し10,779人減少しているが、本年度より厳密に入館者数をカウント(大学関係者をカウントしない)としたため、単純に比較はできない。</p> <p>③資料提供サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出し冊数：2,696冊(前年度から249冊増) ・貸出し延べ人数：1,243人(前年度から82人増) <p style="text-align: center;">[学生貸出数：971人]</p> <p>※昨年度より貸出数は増加している。これは、専門図書に加え、ベストセラーなどの娯楽書を配架したこと、一般情報雑誌などを新たに購入したことなどが理由と思われる。</p> <p>・他大学との相互協力による資料依頼・提供件数</p> <table border="1" data-bbox="678 1400 1284 1512"> <thead> <tr> <th></th> <th>文献複写</th> <th>相互貸借</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>依頼</td> <td>76</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>受付</td> <td>46</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>		文献複写	相互貸借	依頼	76	33	受付	46	26
	文献複写	相互貸借								
依頼	76	33								
受付	46	26								
(2) 図書館資料の整理と保全	<p>①図書延滞者への対策 貸出図書延滞防止のため督促を掲示から電話(学生は月に2回、教員は月に1回)に変更した。結果、延滞が激減した。</p> <p>②書架の整理と配架方法の変更 書庫の狭隘化と学生のニーズに対応するため、利用数が極端に少ない外国書を空き研究室に別置き、郷土資料を中心とした書架を新設した。</p>									
(3)新潟県大学図書館協議会研修会	<p>本学を主幹校とし、研修会が開催された。研修会においては、各県内大学図書館の積極的な取り組みが発表され、積極的な情報交換の場となった。</p> <p>実施日：平成22年12月30日(金) 参加大学：県内18大学 参加人数：26人</p>									

8. 施設開放

事業項目	平成 22 年度実施内容
(1) 施設開放については地域に広く利用を呼びかけ、地域に根ざす開かれた大学として、一層の施設開放を推進する。	<p>・年間約 10,000 人の学外者の利用があった。施設別には以下のとおりである。</p> <p>【開放施設】</p> <p>①体育館 開放日数：延べ 46 日 ②グラウンド 開放日数：延べ 19 日 ③テニスコート 開放日数：延べ 57 日 ④講堂・教室・会議室 利用件数：延べ 77 件 ⑤駐車場他学外施設 開放日数：延べ 5 日</p>

9. スタッフ・ディベロップメント

事業項目	平成 22 年度実施内容																		
「事務職員及び教務職員の業務研修」	<p>学校法人柏専学院教職員の研修に関する規程」に基づき、下表のとおり学内SD研修会および、外部研修会へ参加した。</p> <p><学内SD研修会></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>時間</th> <th>研修テーマ等</th> <th>参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 22 年 9 月 3 日 (金)</td> <td>15 : 00 ~16:30</td> <td> <p>テーマ：『学生募集について（魅力ある大学とは）』</p> <p>目的：学生にとって魅力ある大学とはどのような大学であるかを討議し、それに対し本学の現状はどうであるかを確認し、改善努力が必要な部分について、各々改善に取り組む。</p> <p>形式：全事務職員及び教務職員の討論</p> <p>実施概要：はじめに、「魅力ある大学」とはどのような大学であるか全体討議により3つ掲げた。それに基づき3つのグループに分け、グループごとに討論を行った。その後、グループ毎に討論内容を発表（本学の要改善点の確認と、その改善策等）し、再び全体討論を行った。これにより、事務職員及び教務職員が各々本学の現状を再確認することができ、これまで以上に目的意識を持った業務遂行が為されることとなった。</p> </td> <td>23名</td> </tr> </tbody> </table> <p><学外SD研修会></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>時間</th> <th>研修テーマ等</th> <th>場所</th> <th>参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 22 年 5 月 15 日 (土)</td> <td>13 : 00 ~ 17 : 30</td> <td> <p>県内共生型大学連携事業 テーマ：『大学組織における職員の役割を考える』</p> <p>形式：講師講演、参加者によるグループワーク</p> </td> <td>長岡造形大学</td> <td>3名</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	時間	研修テーマ等	参加数	平成 22 年 9 月 3 日 (金)	15 : 00 ~16:30	<p>テーマ：『学生募集について（魅力ある大学とは）』</p> <p>目的：学生にとって魅力ある大学とはどのような大学であるかを討議し、それに対し本学の現状はどうであるかを確認し、改善努力が必要な部分について、各々改善に取り組む。</p> <p>形式：全事務職員及び教務職員の討論</p> <p>実施概要：はじめに、「魅力ある大学」とはどのような大学であるか全体討議により3つ掲げた。それに基づき3つのグループに分け、グループごとに討論を行った。その後、グループ毎に討論内容を発表（本学の要改善点の確認と、その改善策等）し、再び全体討論を行った。これにより、事務職員及び教務職員が各々本学の現状を再確認することができ、これまで以上に目的意識を持った業務遂行が為されることとなった。</p>	23名	実施日	時間	研修テーマ等	場所	参加数	平成 22 年 5 月 15 日 (土)	13 : 00 ~ 17 : 30	<p>県内共生型大学連携事業 テーマ：『大学組織における職員の役割を考える』</p> <p>形式：講師講演、参加者によるグループワーク</p>	長岡造形大学	3名
実施日	時間	研修テーマ等	参加数																
平成 22 年 9 月 3 日 (金)	15 : 00 ~16:30	<p>テーマ：『学生募集について（魅力ある大学とは）』</p> <p>目的：学生にとって魅力ある大学とはどのような大学であるかを討議し、それに対し本学の現状はどうであるかを確認し、改善努力が必要な部分について、各々改善に取り組む。</p> <p>形式：全事務職員及び教務職員の討論</p> <p>実施概要：はじめに、「魅力ある大学」とはどのような大学であるか全体討議により3つ掲げた。それに基づき3つのグループに分け、グループごとに討論を行った。その後、グループ毎に討論内容を発表（本学の要改善点の確認と、その改善策等）し、再び全体討論を行った。これにより、事務職員及び教務職員が各々本学の現状を再確認することができ、これまで以上に目的意識を持った業務遂行が為されることとなった。</p>	23名																
実施日	時間	研修テーマ等	場所	参加数															
平成 22 年 5 月 15 日 (土)	13 : 00 ~ 17 : 30	<p>県内共生型大学連携事業 テーマ：『大学組織における職員の役割を考える』</p> <p>形式：講師講演、参加者によるグループワーク</p>	長岡造形大学	3名															

Ⅱ. 新潟産業大学 大学院 経済学研究科

1. 教育および研究指導の整備と質の確保にかかる事業

事業区分・項目	平成 22 年度実施内容
(1)教育課程の整備	<p>①教育目標の明確化 研究科のアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを明文化し、ホームページ等に公開した。</p> <p>②カリキュラムの改正 院生の研究者としてのステップアップを目的とした新設科目「英米経済学文献研究」を設置し開講した。</p> <p>③論文指導體制の見直し 論文指導體制を次年度から複数指導教員制にすることを決定した。</p> <p>④個別指導體制の強化 全院生に経済学（ERE）検定の受験を義務づけ実施した。</p> <p>⑤学位認定基準の明確化 研究科委員会の議論を経て、修士論文作成の要領、注意事項、審査基準（院生に対しては期待される水準として）をまとめ、院生配付用の「2011 大学院ガイドブック」を作成した。また、このガイドブックには「新潟産業大学大学院経済学研究科における学位論文審査及び最終試験の方法等に関する細則」もあわせて掲載した。</p>
(2)ファカルティ・ディベロップメントの推進	<p>①FD委員会の設置による活動の体系化 FD活動を定着するための体系的なシステムを構築するため、大学院独自にFD委員会を設置し、体系的に実施することを決定した。</p> <p>②授業評価アンケートの実施 授業評価アンケートを実施し、集計結果を院生研究室および学内Web ページ上に公開した。</p>

2. 学習・研究支援環境の整備にかかる事業

事業項目	平成 22 年度実施内容
(1)基礎学力養成支援	院生の経済学（ERE）検定受験のために、院生全員の受験料の支援を行った。

3. 多様な社会のニーズに対応すべく幅広い教育課程の編成等にかかる事業

事業項目	平成 22 年度実施内容
(1)特別非常勤講師制度の導入	平成 21 年度に引き続き、平成 22 年度も講義担当として李瑞雪（富山大学准教授）、柴垣和夫（東京大学大学院名誉教授）の 2 人を特別非常勤講師として招いた。
(2)社会人受講者への利便性・教育効果向上のための教育制度の導入	勤務の都合等により演習等の時間がとりにくい社会人の院生について、十分な指導が行えるよう曜日時限や授業方法などについて弾力的な調整を行った。

Ⅲ. 新潟産業大学附属高等学校

1. 平成22年度の「教育等の事業」の概要

前年度までの部活動での活躍や大学進学実績をさらに高めるために、今年度も「部活で燃えろ、進路で輝け」をスローガンに掲げ、少子化に伴う適齢人口の減少や、教育の多様化、個性化に対応し、地域に信頼され、期待される新潟産業大学附属高等学校を目指すために、募集活動や広報活動で当校の特色・魅力や教育成果などを、地域に深く理解していただけるよう努力してきた。

2. 平成22年度実績

(1) 部活動実績（全国レベルに挑戦）

①県高等学校総合体育大会に105名（昨年度113名）が出場し、6名が優勝した。（昨年度9名）

②北信越高等学校体育大会に28名（昨年度32名）が出場した。

陸上競技部は、男子400mで優勝、女子走高跳第5位とインターハイ出場権を獲得した。男子卓球部では、シングルスで優勝し、女子卓球部は、学校対抗、シングルス、ダブルスと完全優勝を果たした。水泳部でも女子200m自由形で第2位と女子400m自由形で優勝を果たした。

③北信越高等学校選抜卓球選手権大会では、女子団体が優勝。

④全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に20名（昨年度16名）が出場した。水泳部は女子、200m自由形と女子400m自由形に出場した。卓球部は、男子個人と初の女子団体での出場を果たし、男子シングルスで第5位入賞、女子シングルスで準優勝、女子ダブルスで第5位入賞と、その実力を発揮した。陸上競技部は、女子走高跳と男子400mに出場し、男子400mでは、第3位入賞を勝ち取った。

⑤第65回国民体育大会ゆめ半島千葉大会県代表選手に、陸上競技、卓球競技、ゴルフ競技、水泳競技の計7名（昨年度6名）が出場した。陸上競技では、少年男子400mで第4位入賞を果たした。

(2) 進学実績（大学・短期大学進学率54.8%、専修学校12.9%）

※昨年度大学・短期大学進学率37.1%、専修学校33.6%

①4年制大学進学率、地域6校の中で3番目。（中等教育学校を除く）

②7限・夏期・冬期補習・サマーゼミ（2泊3日の学習合宿）・春期特進講座は前年度と同様に計画・実施した。

サマーゼミは、昨年同様1,2年生妙高高原にて実施した。

③大学進学プログラム（7,8限、毎週土曜）

水曜を除く、月曜から金曜までの8限と水曜の7,8限及び土曜日1～3限を利用し、大学進学に必要な受験指導をしてきた。

④高大連携教育（ブリッジプログラム）の実施

週2単位のステップアップ科目と基礎中国語の授業や1年のフレッシュマンセミナー、産大体験授業、2年生の産大講演会、3年生の産大説明会等、附属高校独自のキャリア教育も大学側の多大な協力により予定どおり実施することができた。

3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ

(1) 教育目標と教育方針

【教育目標】

1. 人生観の指導と自信のある生活態度の育成
2. 学習意欲と能力の向上
3. 自律自治と社会連帯の精神涵養

【教育方針】

生徒一人ひとりを大切にすることを基本に据え、☆部活で燃えろ☆進路で輝けを合言葉に、全国に名高い部活動・進学校を目指す。

(2) 生徒への支援

【教務部】

《今年度の重点事項》

- ①新教育課程に対応する教育課程表の検討
- ②学習意欲・態度の向上及び基礎学力の定着
- ③少人数教育の実施と検証・改善
- ④家庭学習の習慣付けの工夫
- ⑤出席状況の確認の徹底
- ⑥進路指導部との連携による統一した進学指導と体制の強化
- ⑦朝読書の実施
- ⑧総合的な学習の時間の内容の検討
- ⑨学校見学会への参加の促進

《細部の取り組み》

- ①期限付きの取り組み（出席率や授業規律の週間の取組）
- ②赤点の学期毎の解消
- ③総合的な学習の時間の確保
- ④HR等の充実
- ⑤時間割、時間変更（自習の削減のため）
- ⑥教務部会の充実（部会の時間を確保）
- ⑦成績処理システムの点検、指導要録の電子化を進める。
- ⑧平成23年度教科書の選定
- ⑨スポーツ特別推薦の生徒の査定会報告

- ⑩教科部会の充実
- ⑪日本語が不自由な生徒の日本語指導
- ⑫学年集会の曜日・場所の設定
- ⑬入学式・卒業式
- ⑭入学試験実施要領

《まとめ》

- ①「出席率向上の取り組み」や「授業規律向上の取り組み」によって、授業態度の改善が見られた。
- ②来年度は赤点補習の対象者を減少させ、長期休業をもっと効果的に使える体制作りをしたい。
- ③期末考査や学年末考査後の授業では、授業時間をできるだけ平均化できた。
- ④成績処理については、教員の理解が浸透し、大きなトラブルはなかった。
- ⑤教務部会、教科部会では新教育課程編成から成績評価、授業研究まで積極的に会議がなされた。
- ⑥卒業式を数年ぶりに校内で挙行了した。問題点もいくつかあったが、教職員の協力で無事に終了できた。

【生徒指導部】

《今年度の重点事項》

- ①規律ある生活態度を育成し、社会のルールやマナーを理解・実践させる。
- ②生徒が授業や部活動・行事に主体的に参加するための援助をする。

《具体的な取り組み》

- ①基本的生活習慣の確立と中途退学者の防止
- ②校内規律の確立及び社会のルールの遵守
- ③通学と交通安全・アルバイト指導
- ④規律ある学校生活の育成のための啓発活動の実施
- ⑤生徒の学習・部活動・自治的な活動
- ⑥部活動と専門委員会の指導

《まとめ》

- ①啓発教育のため、学期毎に保護者向けにニュースを発刊した。
- ②交通マナーアップ指導は定期的には取り組めなかった。
- ③自転車通学の登録の徹底指導を行ったことで、盗難の抑制などに効果があった。
- ④部活動の活躍（インターハイ16名出場、準優勝、3位入賞、5位入賞、）
- ⑤専門委員会活動の活性化（図書・視聴覚・生活環境・保健委員会）
- ⑥授業規律向上の取り組み、校内外巡回指導で、生徒の声かけを積極的に行った。
- ⑦アルバイト指導の諸問題（無許可アルバイト等）
- ⑧交通安全指導（自転車保険、自動車運転免許取得届の提出の徹底）
- ⑨制服管理の徹底（新入生男女制服、女子スカートの変更）

【進路指導部】

《今年度の重点事項》

【指導目標】

- ・学習する雰囲気高め、基礎基本を重視すると共に、全般的な学力向上の為に努力する。
 - ・進学指導を強化し、大学進学を高める。
 - ・進路指導が学年毎に、段階的、系統的に行われるように次の指導方針を置く。
- 1年：意欲を持たせ、自分の理想とする生き方や将来の方向、職業を考える。
高校生活への適応を図り、将来の進路について具体的な目標を追求する。
- 2年：自分の興味・関心・能力を客観的につかむ。
高校生活への充実を図り、適切な進路選択の為、自己理解を深めさせる。
- 3年：社会的自己実現のため、適切に進路を決定させ、目標達成の為、努力させる。自分の総合的な興味・適性・能力と進路情報を考え合わせ、進路を考えさせる。

《具体的な取り組み》

- ①進路の手引き作成
- ②資料の蓄積と整理・生徒への激励
- ③模擬テストの年間計画
- ④就職希望者への勉強会
- ⑤カレッジコースの卒業時までの継続した進路指導
- ⑥大学進学者の増加策
- ⑦大学進学プログラム・サマーゼミ等の充実と校内進学塾の開設
- ⑧履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる。
- ⑨積極的な求人先の開拓（企業訪問）
- ⑩社会人としての心得についての指導
- ⑪進路関係業者による進路指導の体系化
- ⑫広報による啓発活動
- ⑬企業研修（起業家育成基盤事業）

《まとめ》

- ①進路意識調査の実施
- ②サマーゼミの実施（妙高高原町：1年22名、2年12名参加）
- ③センター試験対策ゼミ実施
- ④1年産大体験授業（7分野に分かれて授業）
- ⑤センター試験説明会（2、3年生カレッジコース対象で実施）
- ⑥就職ガイダンスⅠ実施（就職試験までの流れ）
- ⑦就職ガイダンスⅡ実施（面接の受け方：産大非常勤講師橋本先生）
- ⑧厚生労働省主催就職ガイダンス実施
- ⑨手話講座
- ⑩資格取得の奨励（柏崎労働基準協会）
- ⑪就職試験対策講座
- ⑫センター試験激励会（試験当日、新潟産業大学にて）
- ⑬企業訪問（求人開拓）
- ⑭ハローワーク相談室（就職希望者と未内定者対象）

- ⑮就職試験激励会（神主様よりお祓い）
- ⑯社会人準備セミナー（社会でのマナー：にいがたキャリアサポーター須藤様）
- ⑰就職希望者4者面談（保護者、生徒、担任、生徒指導部）
- ⑱進路指導ニュースの発行

4. 生徒募集

（1）中学校訪問の強化（長岡・上越地域の生徒の増加のために）

第1回から第3回までの中学校訪問は、午後からの授業が無い考査期間中に実施したり、第4回中学校訪問も訪問者の授業時間割りを考慮し、訪問日を分散して実施した。

第1回中学校訪問（広報活動、情報収集）7月5日（月）

柏崎、長岡、魚沼、十日町、上越 70校（昨年度70校）

第2回中学校訪問（生徒募集並びに広報活動、学校見学会案内）10月13日（水）

柏崎、長岡、魚沼、十日町、上越 51校（昨年度50校）

第3回中学校訪問（推薦・一次入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動）

12月7日（火）柏崎、長岡、魚沼、十日町、上越 70校（昨年度54校）

第4回中学校訪問（二次入試に向けて）1月31日（月）～2月3日（木）

柏崎、長岡、魚沼、十日町、上越 58校（昨年度42校）

（2）高校説明会（中学校からの依頼参加）

<柏崎・刈羽地区（12校）12回>

- ① 6月15日（火）柏崎市立第五中学校
- ② 6月18日（金）柏崎市立瑞穂中学校
- ③ 6月18日（金）刈羽村立刈羽中学校
- ④ 6月22日（火）柏崎市立西山中学校
- ⑤ 6月23日（水）柏崎市立第一中学校
- ⑥ 6月24日（木）柏崎市立鏡が沖中学校
- ⑦ 6月25日（木）柏崎市立第二中学校
- ⑧ 7月 8日（木）柏崎市立高柳中学校
- ⑨ 7月16日（金）柏崎市立東中学校
- ⑩ 9月 7日（火）柏崎市立北条中学校
- ⑪ 9月16日（木）柏崎市立南中学校
- ⑫ 9月28日（火）刈羽村立松浜中学校

<長岡地区（5校）5回>

- ① 6月16日（水）長岡市立東北中学校
- ② 6月16日（水）長岡市立宮内中学校
- ③ 6月25日（金）長岡市立青葉台中学校
- ④ 9月10日（金）長岡市立越路中学校
- ⑤ 9月17日（金）長岡市立大島中学校

<小千谷地区（1校）1回>

- ① 7月20日（火）小千谷市立東小千谷中学校

<上越地区（7校）7回>

- ① 6月24日（木）上越市立直江津中学校

- ② 6月24日(木) 上越市立八千浦中学校
- ③ 7月12日(月) 上越市立柿崎中学校
- ④ 7月16日(金) 上越市立頸城中学校
- ⑤ 7月16日(金) 上越市立大潟町中学校
- ⑥ 7月20日(火) 上越市立城北中学校
- ⑦ 9月25日(土) 上越市立直江津東中学校

<十日町地区(1校) 1回>

- ① 7月2日(金) 十日町市立南中学校

(3) 中学校教師対象入試説明会

10月14日(水) 20校 20名 (平成21年度21校 21名参加)

柏崎市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、鏡が沖中学校、瑞穂中学校、松浜中学校、南中学校、東中学校、第五中学校、北条中学校、高柳中学校、西山中学校、刈羽村立刈羽中学校、出雲崎町立出雲崎中学校、長岡市立宮内中学校、青葉台中学校、越路中学校、小国中学校、上越市立城東中学校、小千谷市立千田中学校

(4) 学校見学会(オープンスクール)

第1回学校見学会 7月13日(火)(授業・部活動体験、産附弁当配付)
48名(昨年度62名)

第2回学校見学会 10月19日(火)(授業・部活動体験、産附弁当配付)
97名(昨年度27名)

(参考) 平成15年50名、平成16年86名、平成17年56名、
平成18年76名、平成19年90名、平成20年168名、
平成21年170名

※第1回学校見学会は、例年9月に実施していたところ、今年度7月に変更し、実施した。

5. 新規取組事項

- (1) 教室棟・第一体育館の耐震補強工事。
- (2) 野球部創部50周年記念式典挙行。
- (3) 卓球・陸上インターハイ入賞祝勝会実施。
- (4) 見学会、入試説明会時期変更。
- (5) 体育祭、統一祭時期変更。
- (6) 県内私立高等学校への学校視察。(中越高校、東京学館新潟高校)
- (7) 2,3年カレッジコース教室配当変更。(教室棟から講堂棟へ移動)
- (8) 昨年度同様、学校名を広く浸透させるために広告等掲載を強化し、柏崎地区は、「柏崎情報パーク」、上越地区は、「上越タイムズ」、新潟日報上越版、長岡地区は、「まるごと生活館」、新潟日報中越版等にそれぞれ掲載依頼した。
- (9) 以前から柏崎・刈羽地域を中心に、『部活に燃えろ、進路で輝け』という広報紙を各家庭に配布している。今年度上越地域へも拡大を図ってきた。今後長岡地域への浸透も図って行く。
- (10) 昨年度同様、第1回・第2回学校見学会の両方とも産附弁当を提供した。…今年度も包み紙に学校のPR印刷を行った。
- (11) 教員対象入試説明会でも産大饅頭をお茶菓子として準備した。
- (12) 今年度もホームページから受験書類の一部をダウンロードできるように対応した。

3部 財務の概要

資金収支計算書

平成22年4月 1日から
平成23年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

収入の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	入学金、授業料等の納付金	674,834,000	674,600,003	233,997
手数料収入	入学検定料、証明手数料など	11,019,190	11,456,457	△ 437,267
寄付金収入	本法人に対する寄付金、 但し現物寄付は除く	32,531,000	32,357,150	173,850
補助金収入	国、地方公共団体などから 交付される補助金	436,806,000	436,902,607	△ 96,607
国庫補助金収入	国などからの補助金	(231,664,000)	(231,673,072)	(△ 9,072)
地方公共団体補助金収入	県などからの補助金	(205,142,000)	(205,229,535)	(△ 87,535)
資産運用収入	預金・有価証券等の利息	2,771,000	3,005,901	△ 234,901
資産売却収入	有価証券等の売却	401,738,000	410,329,312	△ 8,591,312
事業収入	学生寮の寮費、公開講座・ 受託事業収入等	27,011,000	27,471,800	△ 460,800
雑収入	上記以外の収入	37,896,000	42,020,066	△ 4,124,066
前受金収入	平成23年度入学生にかゝる 納付金など	57,754,000	65,681,900	△ 7,927,900
その他の収入	本法人に帰属しない収入	182,732,710	130,526,419	52,206,291
資金収入調整勘定	当年度の収入と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 104,528,461	△ 155,195,732	50,667,271
前年度繰越支払資金	平成21年度から繰り越された 現預金	1,220,724,785	1,220,724,785	
収入の部合計		2,981,289,224	2,899,880,668	81,408,556
支出の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
人件費支出	教職員、役員等の給与・手当	768,591,000	768,589,668	1,332
教育研究経費支出	教育研究のために要した経費	398,372,000	393,466,286	4,905,714
管理経費支出	教育研究経費以外の経費	117,755,000	114,722,150	3,032,850
借入金等利息支出	借入金の返済利息	0	0	0
借入金等返済支出	借入金の返済金	0	0	0
施設関係支出	建物、構築物	280,000	279,600	400
設備関係支出	備品、図書	8,521,000	6,599,720	1,921,280
資産運用支出	有価証券等の購入 特定預金への支出	730,154,000	732,165,304	△ 2,011,304
その他の支出	上記以外の支出	103,878,426	58,144,030	45,734,396
〔 予 備 費 〕	当年度の子備費使用額	(3,959,000)		
	当年度の子備費の未使用額	15,241,000		15,241,000
資金支出調整勘定	当年度の支出と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 21,229,979	△ 23,017,577	1,787,598
次年度繰越支払資金	平成23年度へ繰り越す現預金	859,726,777	848,931,487	10,795,290
支出の部合計		2,981,289,224	2,899,880,668	81,408,556

消費収支計算書

平成22年4月 1日から
平成23年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

消費収入の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	入学金、授業料等の納付金	674,834,000	674,600,003	233,997
手 数 料	入学検定料、証明手数料など	11,019,190	11,456,457	△ 437,267
寄 付 金	本法人に対する寄付金、 現物寄付を含む	33,060,000	33,057,604	2,396
補 助 金	国、地方公共団体などから 交付される補助金	436,806,000	436,902,607	△ 96,607
国庫補助金	国などからの補助金	(231,664,000)	(231,673,072)	(△ 9,072)
地方公共団体補助金	県などからの補助金	(205,142,000)	(205,229,535)	(△ 87,535)
資 産 運 用 収 入	預金・有価証券等の利息	2,771,000	3,005,901	△ 234,901
資 産 売 却 差 額	資金収支の資産売却収入から 売却資産の簿価を引いた差額	0	0	0
事 業 収 入	学生寮の寮費、公開講座・ 受託事業収入等	27,011,000	27,471,800	△ 460,800
雑 収 入	上記以外の本法人への消費収 入	37,896,000	42,020,066	△ 4,124,066
帰 属 収 入 合 計	本法人の純財産を増加させる 収入の合計	1,223,397,190	1,228,514,438	△ 5,117,248
基 本 金 組 入 額 合 計	教育に欠かせない資産を取得 した場合に組み入れする額	△ 1,171,000	0	△ 1,171,000
消費収入の部合計		1,222,226,190	1,228,514,438	△ 6,288,248
消費支出の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
人 件 費	教職員、役員等の給与・手当と 退職給与引当金の組入額	777,386,680	777,385,079	1,601
教 育 研 究 経 費	教育研究のために要した経費 (減価償却額を含む)	511,372,000	504,628,293	6,743,707
管 理 経 費	教育研究経費以外の経費 (減価償却費を含む)	130,755,000	127,126,733	3,628,267
資 産 処 分 差 額	備品、図書を処分にかかる帳簿 価額との差額	18,500,000	5,342,340	13,157,660
徴 収 不 能 額	未収入金等で当期において回収 不能と判断した額	0	2,865,500	△ 2,865,500
[予 備 費]	当年度の予備費使用額 (消費収支上の予備費) 当年度の予備費の未使用額 (消費収支上の予備費)	(4,083,000) 14,117,000	/	14,117,000
消費支出の部合計		1,452,130,680	1,417,347,945	34,782,735
当 年 度 消 費 収 支 差 額	当年度の収支差額 [消費収入の部]-[消費支出の部]	△ 229,904,490	△ 188,833,507	/
前 年 度 繰 越 消 費 収 支 差 額	平成21年度からの繰り越された 消費収支差額	△ 1,559,802,108	△ 1,559,802,108	/
基 本 金 取 崩 額	基本金の取り崩し額	0	14,557,353	/
翌 年 度 繰 越 消 費 収 支 差 額	平成23年度へ繰り越される 消費収支差額	△ 1,789,706,598	△ 1,734,078,262	/